
I don` t wanna love

翔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I don't wanna love

【Nコード】

N0530C

【作者名】

翔

【あらすじ】

終わリなんてないと思ってた。だけど、それは間違いたと思うようになった。そんな女の子の物語。

（前書き）

この駄文は倉木麻衣さんの「I don't wanna love
e」という曲のファンフィクションです。 苦手なご遠慮ください。

それは、いつも通りの日常にいきなり起こった。

少し日も傾きかけ、人の流れが緩やかになり始めた街で

私は俯き加減で歩いていた。

最近はある人に会いたくないからこうして歩いているのだ。

まあ結果なんの意味もなかった。

それは信号待ちで

ふと顔をあげると

そこには懐かしい顔

あの人だ。

私の…元カレ。

つい見つめてしまつて

必死で動揺をかくそうとしたけど

自分でもわかるくらい戸惑って。

後で自分を笑ってやろうと思った。

そんな私の横を颯爽と歩いて行く一人の女性。

そのコはカレに近づくと

微笑みながら腕をくんだ。

ああ…噂の彼女か…

カワイイ顔してやがる。

勝てるワケがないじゃないか。

胸のドキドキが止まないまま

横断歩道があるきだした。

カレは彼女となかよく話している。

そんな光景に目はくぎづけで

二人をじつと見るしかなかった。

だって今あの人の隣にいるのは私じゃない。

それに

きつと私は今泣いている。

それを気付かれたくない。

私にだって意地つてもんがある。

赤信号ぎりぎりですり横断歩道を渡りきると

突然あの人は私に気付き手を振った。

ふん。このまま泣き付いてやろうか。

なんてできるはずもないことを考えてる自分が馬鹿らしくなりながら返したから

なんだかきこえない微笑むになってしまった気がする。

まったく彼女にはかなわないや…

私は最後のカレへの意地悪で

わざとカレの前をゆっくりあるいてやった。

きつと私の涙に気付いたに違いない。

そしたら少しは私のこと見てくれるかな？

「まだ過去形には出来ないんだよ…？」

私の掠れた声は聞こえたかな？

私の最後のあなたへのつまらない意地…

（後書き）

ただそばにいたいだけだったのに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0530c/>

I don't wanna love

2010年10月10日05時23分発行